

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：32726

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820059

研究課題名(和文) GHQ 占領期における「古典」観の変容と占領政策の相関についての学際的国際的研究

研究課題名(英文) Transformations of the "Canon" under the GHQ occupation policy studied by interdisciplinary and international methodology

研究代表者

志賀 賢子(川崎賢子)(SHIGA(KAWASAKI), KENKO)

日本映画大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：40628046

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000 円、(間接経費) 690,000 円

研究成果の概要(和文)：国内においては占領期雑誌新聞情報データベースを用い「古典」「正典」「伝統」などのキーワードにかかわる記事の動向を調査した。メリーランド大学プランゲ文庫において、図書資料に収められた「古典」刊本の検閲を調査し、米国国立公文書館において、GHQ の日本「古典」についての調査資料を収集した。上記を分析考察する過程で、早稲田大学20世紀メディア研究所における口頭発表に加え、論文として「かいくぐることと自粛と」『検閲・メディア・文学』新曜社、2012年、133-140頁、「GHQ 占領期における「文楽」の変容 「古典」になること」『Intelligence』 vol.13、68-78頁などを発表した。

研究成果の概要(英文)：I investigated the trend of articles related to the keyword "classic", "canon" and "tradition" with the GHQ Occupation Period magazine newspaper information database in Japan and the University of Maryland Prange Collection. And in the United States National Archives, collecting research material about Japan "classic" of the GHQ occupation forces. In addition to the oral presentations in the Study Group The Institute of 20th Century Media in Waseda University, as paper "Around the Shinobi", Murayama Tomoyoshi Dramatic Vanguard, Shinwasha, 2012, pp.367-394, "Hisao Juran and the Censorship of Showa Modernist Literature", Censorship, Media and Literature, Shinyosha, 2012, pp.133-140, "The transformation of Bunraku in the GHQ occupation period: Being a Classical" 2013, pp.68-78, Intelligence, vol.13.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：日本文学 文化研究 演劇 芸能 映画 GHQ 占領 検閲 カノン

#### 1. 研究開始当初の背景

文学概念の検証、国文学研究の制度の成立と変容、文学カノンの形成と変容については、近代日本文学研究の重要な課題として国内外の関心が高まっていた。しかしながらとりわけ敗戦後占領下の特殊な状況における変容と持続について一次資料を用いた研究が手薄であった。

占領期における文芸の研究については、同時代文学に対する検閲処分に関する研究が先行していたが、検閲、奨励指導をあわせて「古典」領域に生じた事象に関する研究はほとんどなされていなかった。

広く芸能についてみると、歌舞伎に対する上演禁止等の指導についての研究はすでに散見されたが、隣接する文楽等についての研究が少なかった。

#### 2. 研究の目的

戦時下に民族文化の粹と見なされ、戦争遂行のためのイデオロギーの一端を担わされた「古典」テキストについて、GHQ 占領期には、軍国主義、(超)国家主義、封建主義を解体するという政策のもとで、評価の変更が迫られた。国策と強く結びついていた記紀歌謡、太平記、国学などの研究教育及び文芸ジャーナリズム等メディアの扱いなどは大きく変わった。しかしながらその経緯が内在的に明らかにされているとは言い難い。

「古典」概念及び何をもって文学のカノンと認めるか、「古典」の権威のよりどころをどこに求めるのか、という価値意識は、明治以降の国際関係と国民国家教育の過程で幾度も転機を迎えた。明治以降の国民国家形成過程からアジア・太平洋戦争期の国家総動員体制や大東亜共栄圏構想にいたる時期を対象とした研究が先行しているのに対し、本研究は、敗戦と GHQ/SCAP (占領軍最高総司令部) による占領期のメディア政策、教育政策が、日本文学の「古典」観および文学教育にもたらした影響を明らかにする。ジェームズ・ブランドン「歌舞伎を救ったのは誰か? アメリカ占領軍による歌舞伎検閲の実態」『演劇学論集 日本演劇学会紀要』(42号, 2004年11月)は、占領期には、占領軍の懲罰、奨励、要請にもかかわらず「時事問題を仕組んだ際物が消え、三百五十年の歌舞伎の歴史上はじめて、歌舞伎が「古典」となった」と主張するが、実際、占領期における文芸の「近代化」は「古典」にとっての受難であったとばかりはいえない。戦後占領期とは、文芸の「近代化」によって「古典」が再編され、新たにつくりだされ、あるいはある領域の文芸が「古典化」した時代でもある。この仮説を一次資料によって実証し、検証することが本研究の総合的な目標である。

本研究は、上記の分析の過程で、「芸能」「芸術」の境界の移動、概念の再編についても、あわせて考察しようとした。

以上は半面で、GHQ の検閲組織(民事検閲局 CCD)や、教育指導の組織(民間情報教育局

CIE)に所属する人々の、日本文化理解の変容、深化の過程を明らかにすることでもあった。

#### 3. 研究の方法

- (1) 国内においては国会図書館憲政資料室における調査、早稲田大学演劇博物館における調査、海外においては米国メリーランド大学プランゲ文庫所蔵資料、米国立公文書館資料の調査研究を中心に、20世紀メディア情報データベース(旧占領期雑誌・新聞情報データベース)を活用して資料調査、収集を行った。資料の分析にあたっては文学史研究の方法に加えてメディア史研究、社会学などの方法を適宜援用した。
- (2) 20世紀メディア情報データベースをツールとして「古典」「正典」「伝統」「芸術」「芸能」「封建」などのキーワードにかかわる記事の出現頻度、検閲の有無、地域的分布などを検索し、記事の保存、分析考察を行った。
- (3) あわせて、米国メリーランド大学所蔵プランゲ文庫資料を用いて、上記関連記事に対する占領軍の検閲処分の有無、その自由などにかかわる文書を収集、分析考察を行った。
- (4) 検閲における東京・大阪・九州など管轄地域の際による相違について、現存の GHQ 資料が中央のものに偏り比較対照が困難なところ、早稲田大学演劇博物館所蔵のダイザーコレクション(九州地区演劇台本に対する GHQ 検閲資料)を調査し、歌舞伎・浄瑠璃台本に対する検閲事例の調査収集と分析を行った。
- (5) 米国立公文書館において、古典および(古典)芸能に対する検閲、劇団劇場興行会社に対する指導、占領軍による情報収集と動向分析にかかわる資料を収集し、分析考察を行った。

#### 4. 研究成果

(1) 占領期における文学のとりわけ文学専門家ではない草の根の人々も多く関わる短詩型領域における「古典化」「近代化」概念の変容をめぐり、いわゆる「第二芸術論」関連資料を網羅的に収集した。

(2) 米国戦略爆撃調査隊(USSBS)が撮影し、米国立公文書館に所蔵する芸能と日常生活に関連する映像資料のうち、宝塚歌劇団の映像について分析考察を行い、関係者への聞き取り調査、隣接分野(映像演劇研究者)との学際的研究、研究発表、報告、エッセイ執筆を行った。

(3) 米国立公文書館資料により、占領期における文楽をめぐる言説が、観客大衆によって商業的に支えることの困難を踏まえ、滅び行く「郷土芸能」から「古典芸能」へと転換したこと、さらには「古典」「芸術」概念によって国民によって保護の対象とされるべき「文化財」へと変化したことの道筋をた

どり跡付けた。あわせて占領軍による「古典芸能」についての理解、分析、検閲と奨励の方針を示す文書を収集、分析考察した。

歌舞伎も文楽も同様に民主主義からほど遠い主題の演目を、前近代的な上演と興行の組織によって見せるものと占領軍は考えていたが、歌舞伎に対する政策と文楽に対する政策は相当に異なっていた。観衆の数と影響力、劇場数が限られていること、歌舞伎と文楽では演目数の規模が全く異なっていたこと、人形と浄瑠璃が分業であるため台本の変更が困難である、そもそも語りを耳で聞いて理解できる観客が多くは想定されない等の理由から、文楽は厳しい上演制限をまめかれたのである。残酷な殺害場面、性的イメージ、かたき討ち、切腹、子供の犠牲、首実検など、GHQ が難色を示した場面は歌舞伎と文楽と共通するが、上演自粛によってこれに対応している。

戦前から続く文楽の経営難についても CCD にレポートがあり、松竹は戦時中から歌舞伎で損失を出したことがないが、対する文楽は40年間赤字とされ、戦災による人形の焼失等の被害、観客の減少、演者の経済的困窮が問題とされている。

書かれた記事について、1945年8月以降1949年までのGHQ検閲文書を集成したプランゲ文庫資料中の「歌舞伎」「文楽」の記事数を20世紀メディア情報データベースによって検索すると、「歌舞伎」が「記事タイトル」825件内検閲(処分)有14件、新聞リード212件内検閲処分有2件、雑誌本文小見出し197件内検閲処分有2件に対し、「文楽」では記事タイトル273件内検閲処分有8件、新聞リード83件内検閲処分有5件、雑誌本文小見出し66件内検閲処分有2件、「浄瑠璃」で記事タイトル90件検閲なし、新聞リード22件検閲なし、雑誌本文小見出し21件検閲なしという規模である。

占領期の文楽の活路の一つは、占領軍内部に新たな観客が得られたことだった。文楽座は大阪PXに隣接し、常時相当数のGHQ関係者が観劇し文楽に親しんでいたことが、文楽を事前検閲から外すべきか否かを検討する文書中にも報告されている。

文楽の「芸術」としての権威づけには、豊竹山城少掾の掾位の受領、昭和天皇の巡幸時、1947年における文楽座の天覧上演の実現が大いに関与した。華族制度廃止の時期を考慮するなら戦後の文化国家に皇族として残る秩父宮にとっても、掾位授与の主体となることは意味のあることだった。文楽天覧をめぐる言説は、科学的知見と舞台芸術に対する審美眼と深い理解をかねそなえるという天皇イメージ形成の側面と芸術としての文楽という権威の構築という側面を持った。社会党内閣の片山首相は天覧上演に陪席し、国立劇場建設の抱負を述べた。山城少掾は、東上公演の興行的成功の理由の第一に「天覧」によって観衆の関心が高まったことをあげてい

る。技芸者、興行会社、自治体関係者、政府、皇室、そしてGHQの思惑と利害が交錯していた。

本研究によりその関係力学が立体的に解き明かされた。

(4)中央の大歌舞伎に対する、「古典」「伝統」の視座からの検閲指導と、地方の小劇団や旅周りの劇団に対する上演演目の制限や検閲取締の姿勢には大きな懸隔があったことが明らかになった。

(5)長く伝聞情報だけであった文楽座における近代化、民主化、そして分裂の原因ともなった組合結成に、米国大阪軍政部将校(従来、「GHQ労働課将校」と称されていた誤りを本調査によって正すことができた)がどのようにかかわっていたか、そのレポートを米国立公文書館資料中より見出し、学会での口頭発表、論文発表を行った。

(6)演劇博物館所蔵「九州地区劇団占領期GHQ検閲台本(ダイザーコレクション)」は、検閲終了時1949年ごろCCD(福岡、第三地区民事検閲局)のPPB(プレス、映画、放送課)セクションの責任者であったウィリアム・ダイザー少尉が廃棄されるべき台本群をミンガン大学に送ったものが、移管されたものである。検閲処分については「許可」「不許可」「不明」で分類されるが、データベースを検索すると、コレクション全体でみるなら許可2222件、不許可1927件、不明4156件となる。ジャンル「歌舞伎」に分類されたもの435件(うち不許可125件、不明219件)、「人形」に分類されたもの46件(不許可2件、不明35件)、「義太夫」42件(不許可32件、不明8件)、「浄瑠璃」12件(不許可1件、不明0件)、「文楽」4件(不許可0件、不明4件)である。ただし「文楽」に分類されたものはすべて「大阪乙女文楽座」による公演である。すでに前掲ジェームズ・ブランドン論文はGHQの演劇検閲について、ほとんどが地方の小さな旅劇団による時代物であったと指摘するが、ダイザーコレクションにおける「不許可」件数の多さとその分布をみると、(4)とあわせて、GHQメディア政策が、地方の小さな旅周りの劇団に厳格であり、大歌舞伎、文楽等に対しては、GHQが決して「古典」「芸術」の破壊者ではないことを印象付けるようふるまったことが理解される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

「GHQ占領期における「文楽」の変容 「古典」になること」、『Intelligence』、vol.13,2013,68-78、査読有  
「踊は水木 久生十蘭のこと」『図書』772号、2013年6月、2-7  
「検閲と性 坂口安吾と戦争」『映画芸術』2013、38-39

「シンポジウム「宝塚歌劇百年、そして未来へ」、小林公一、井上理恵、川崎賢子、鈴木国男」『日本演劇学会紀要』57, 2013 秋、98-120

「書評 滝口明祥著『井伏鱒二と「ちぐはぐ」な近代 漂流するアクチュアリテイ』」『日本文学研究』53 号、2014 年 2 月、169-171

〔学会発表〕(計 3 件)

「GHQ 占領政策と文楽 近代化と古典化をめぐって」、第 75 回 20 世紀メディア研究会、早稲田大学 20 世紀メディア研究所、2013 年 4 月  
シンポジウム「宝塚歌劇百年、そして未来へ」、日本演劇学会 2013 年度全国大会、2013 年 6 月、共立女子大学・学士会館

「USSBS(米国戦略爆撃調査隊)が撮影した宝塚歌劇映像資料について」、早稲田大学演劇映像学連携研究拠点「映像に見る戦前戦後の宝塚歌劇」、2014 年 1 月、早稲田大学

〔図書〕(計 3 件)

「「忍びの者」の周辺」、岩本憲児編『村山知義 劇的尖端』、森話社、2012、367-394 頁

「かいくぐることと自粛と」、鈴木登美、十重田裕一、堀ひかり、宗像和重共編『検閲・メディア・文学』、新曜社、2012、133-140 頁

『宝塚百年を越えて』、国書刊行会、2014

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

志賀賢子(川崎賢子)  
(Shiga[KAWASAKI]Kenko)

日本映画大学・映画学部映画学科・教授  
研究者番号：40628046

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：